

「事務局たより」号外 2022年8月3日 北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会・事務局 福島 清

<<<しばらく中断していましたが、再開します>>>

『日刊ベリタ』 www.nikkanberita.com 主宰=永井 浩・毎日新聞外信部OB

◆2022年07月25日

ミャンマー民主派元議員ら4人の死刑執行

問われる国軍への日本政府の対応 永井 浩

ミャンマー軍評議会は7月25日、アウンサンスーチー国家顧問が率いる国民民主連盟(NLD)の元議員と民主化活動家ら4人の死刑を執行したと国営メディアを通じて発表した。政治犯の死刑執行は1976年以来。国内外の批判が高まるのは必至で、昨年2月のクーデター以来、欧米諸国と一線を画して国軍に宥和的姿勢をつづけてきた日本政府の対応があらためて問われよう。

死刑が執行されたのは、スーチー氏側近のNLD元議員ピョーゼヤトー氏と著名な民主活動家のチョーミンユ氏ら4人。国軍が設置した軍事法廷が「テロ行為」に関わったとして今年1月に死刑判決を言い渡していた。

死刑の執行は、軍評議会 情報省の副大臣で報道官のゾーミントウン少将が6月3日に承認したと明かしていたが、いつ執行されたかは不明。東南アジア諸国連合(ASEAN)議長国カンボジアのフン・セン首相が軍評議会トップのミンアウンフライン総司令官宛てに執行を再考するよう書簡を送ったほか、国連の事実調査団ニコラス・コームジャン代表は「政治的な理由で抵抗している人物に対して死刑を執行することは、戦争犯罪または人道に対する犯罪にあたる」と非難していた。

クーデターに反対して民主主義の回復をもとめて立ち上がった広範な市民の非暴力「不服従運動」に対して、国軍は残忍な武力弾圧をつづけた。市民の犠牲者は現時点ですでに2千人を超えている。

軍評議会はクーデターで拘束したスーチー氏を、汚職などの罪で裁判にかけ、相次ぐ有罪判決を下している。彼女は首都ネピドーの住居に軟禁されてき

たが、今月初めに刑務所の独房に収監された。

さらに今回の死刑執行により、国民は民主化運動への弾圧がさらに強化されるものと警戒感をいっている。

欧米諸国は民主主義を破壊する国軍の暴挙を厳しく非難、クーデター直後から国軍指導者や国軍系企業にさまざまな制裁措置を強めてきた。また各国政府はミャンマー国民の側に立つ姿勢を明確にしてきた。

しかし日本政府は、われわれは国軍とスーチー氏側と「独自のパイプ」を持っているので、それをつうじて欧米とは異なる平和的な解決をめざすと主張してきた。だが「独自パイプ」は何の成果も挙げないままとなっている。またマスメディアも政府の空念仏の唱和を繰り返すだけである。

日本は欧米とおなじ民主主義国家のはずである。また日本はミャンマーへの最大の政府開発援助(ODA)供与国である。だから圧倒的多数のミャンマー国民は日本政府に対して、ODAを武器に国軍に民主主義回復への圧力を強化するよう求めた。またODA事業をつうじて政府の資金の一部が国軍に流れている事実を指摘し、在日ミャンマー人らは「日本のお金で人殺しをさせないで」「日本は国軍と手を切れ」と外務省に訴えてきた。だが日本政府は新規ODAの供与は停止したものの、既存のODAは続行、われわれは国民の側に立つとの旗幟を鮮明にすることもない。

国民の支持を得て当選したNLD議員らの死刑執行という国軍の新たな暴挙に対しても、日本政府は「独自パイプ」による解決という空念仏を繰り返しつつけるのだろうか。

ミャンマー、死刑執行をのり越えて「私は夫を誇りに思います」 野上俊明

7月25日、政権が支配するメディアは、4人の民主化運動家が処刑されたと発表した。これは、ミャンマーで数十年ぶりの官憲による処刑である。犠牲者のひとりが、ヒップホップのパイオニアから国民民主連盟の国会議員になった41歳のコ・ピョザヤトゥだった。この死刑執行は、ミャンマー国民を驚かせ、怒りと悲しみのどん底に突き落とした。このニュースが流れた日、Frontier Myanmar はコ・ピョザヤトゥの妻マ・ターズインニュンアウンに、彼の死、彼の人生、そしてこれが革命にとって何を意味するのかについて話を訊いた。以下、記事全文の翻訳である。

※地元オンライン雑誌 Frontier Myanmar は、唯一欧米人が運営する地元メディアである。昨年11月、同誌の編集副主幹だった D・フェンスター氏は扇動罪で逮捕起訴されていたが、日本財団の笹川氏などの働きかけで釈放され、国外追放になった。Frontier Myanmar は、民主派勢力に都合の悪いことでも取り上げるとしており、折々なかなか読み応えのある調査報道を發表している。以下のインタビュー記事、FM=Frontier Myanmar であり、M/T=コ・ピョザヤトゥの妻マ・ターズインニュンアウンを表す。

政治犯死刑囚の妻が語る、「私は夫がしたことを誇りに思います」

FM: コ・ピョザヤトゥは有名なラッパーで、その後政治家になりました。そしてクーデタ後は活動家となり、死刑判決を受けるまで軍と戦いました。彼の人生について、どのように感じていますか？

M/T: 彼は勇敢なリーダーでした。彼は自分の信じる道を歩んだんです。彼は自分の信じることを実行したのです。これは彼の選んだ道なのです。その道こそが正しい道なのです。彼は勇敢な若きリーダーでした。だからこそ、私は彼が最後までやったことを誇りに思います。

FM: コ・ピョザヤトゥは2012年から2021年まで国会議員を務めました。なぜ彼は2020年の選挙で再選を目指さなかったのですか？

M/T: 国会議員の仕事を手を休んで、自分の人生のために何かやりたいと思ったからです。音楽界への再出

を目指した。だから、コ・ピョザヤトゥは出馬せず、NLD 党は彼を交代させたのです。彼を休ませたのです。彼の人生では、音楽と政治を両立させなければならなかった。もし、クーデタが起こらなかつたら、彼は音楽活動に戻っていたでしょう。

FM: クーデタ後、コ・ピョザヤトゥはどのように対応したのでしょうか？

M/T: 私たちは、軍事クーデタ以来、昨年11月に彼が逮捕されるまで、ずっと一緒にいました。軍事クーデタは不当なものでした。私と彼も平和的な抗議をしました。ヤンゴンの反軍事クーデタ運動にも参加しました。一般市民は平和的に抗議しましたが、彼らはテロリストの軍隊によって残酷に撃ち殺されました。平和的に抗議することができなくなったとき、私たちは自衛権の範囲内で自分たちを守ることを選び取ったのです。

FM: 自衛権には、ヤンゴンでのゲリラ活動も含まれていたのですか？

M/T: そのことはまだ話したくありません。反軍運動に参加した人たちは、私たちだけでなく、全員が自衛権をもっています。国全体がそうなのです。国民は、私たちが何をしなければならなかったかを理解しています。

FM: 11月18日にヤンゴンで逮捕されたとき、あなたは彼と一緒にいたそうですね。その時の様子を教えてくださいませんか？

M/T: 昨年5月頃、軍はコ・ピョザヤトゥに逮捕状を発行しました。11月18日、私たちが住んでいるヤダナローズの家に軍部が入り、逮捕されました。大軍が住宅地に入ってきたのです。何が起きているのか確認するため、私は階下に降りました。降りてみると、軍の部隊が私たちの建物のすべての部屋をチェックしていました。そして彼を鳥かニワトリのように乱暴に逮捕したのです。

FM: 逮捕された後、法廷で弁護する権利はあったのでしょうか？

M/T: 私たちは彼と接触していません。彼の家族も、彼が逮捕されて以来、連絡を取っていません。7月

18日まで、誰も彼と連絡を取ったり、会ったりすることは許されませんでした。私たちの弁護士も連絡を取ることができませんでした。5月、彼は軍事法廷によって死刑を宣告されました。その後、彼が実際に処刑されるだろうというニュースが広がりました。軍による告訴について、彼は法廷で弁護士を立てて弁護する機会がなかったのです。事件がどのように捜査されたかもわかりません。コ・ピョーザヤトウの母親はしばしばインsein刑務所に行き、彼がどこにいるのか、何があったのかを聞きましたが、刑務官は彼が刑務所にはいないと言いました。先週の金曜日（7月22日）、彼らはコ・ピョーザヤトウの母親に会いに来るように連絡してきました。

FM：金曜日に家族が面会に行ったとき、刑務所側は「死刑執行前の最後のお別れだ」と言ったのでしょうか？

M/T：何も言われませんでした。全く何も。彼の母親は、彼に会う機会があるから、会いに来なさいと言われました。それでみなは行ったんです。彼は少し痩せていました。その日はコ・ジミーの親戚も来ていました。そして刑務所の手続きに従って、今日（7月25日）彼に小包と手紙を送る準備をしたのです。私たちの側からは、すべて規則と手続きに沿って行いました。当局は死刑執行について何も言いませんでした。

FM：では、今朝、死刑が執行されたことをどのようにお知りになりましたか？

M/T：ちょうど今日、彼の母親が刑務所に面会に行きました。殺されたという伝言も聞きました。刑務所当局は、軍の新聞で報道された通りだと言いました。私たちは、もし殺したのなら遺体を返してくださいと言いました。しかし、彼らは遺体を返そうとしない。どうやって殺したのか、明らかにする必要があります。兵士に殺されたのか、そうでないのか、教えてください。彼らはこの事件をどう判断したのでしょうか？それが今知りたいことです。彼の母親は遺体を受け取ることを要求しました。刑務所当局は、それを渡す権利がないと言いました。彼らは遺体を渡さなかったし、証拠も見せなかった。インsein刑務所は、彼の家族が要求したことを拒否したのです。私たちが聞いたニュースによると、昨晩は刑務所の前にたくさんの軍の車両があったそうです。街全体が停電になった。それで、昨夜は何があったのだろうか、私たちは考えた。彼の母親は、

情報を求めに行った。しかし、新聞に載っているのと同じだと答えたそうです。それはどういうことかということ、殺されたということです。私はとてもショックで、悲しくなりました。

FM：処刑の話を知ったとき、どう思われましたか？
M/T：私はとても悲しく、辛いです。気分が良くなりたいたとも思わない。私はとても傷ついています。警官は「彼はもうここにはいない」と簡単に言った。それは殺人です。彼らは公然と殺人を犯しているのです。ミャンマーでは軍事クーデタ以来、軍が人を殺し続けてきた。しかし、彼らはいつもこの犯罪を否定していた。しかし、今、彼らは公然と殺人を犯した。彼らは今、人を殺していることを示し、そして、彼らは誰を気にしていない。殺したいと思えば、殺せるのです。彼らは私たちの人権など気にもしていないのです。今回の事件は、まさに最悪です。刑務所のマニュアルによると、死刑判決が下された場合、遺体は返還されなければならない。市営墓地に埋葬しなければならない。でも今、彼らは何もしていない。やりたい放題だ。この問題は、最悪の人権侵害になっている。この問題については、国際社会、ASEAN、そして全世界が、軍に圧力をかけてほしいのです。国内の人たちだけではありません。世界中のすべてのビルマ人が人権侵害にさらされているのです。これはテロリストの軍隊の行動なんです。

FM：ミャンマーでは何十年もの間、死刑が執行されていない。しかし今、ミャンマー政府は政治家や活動家に対して死刑を適用するために、死刑を復活させました。このことをどう思いますか？

M/T：軍が支配する限り、このような死刑判決は繰り返されるでしょう。殺された人たちは、私たちの尊敬するリーダーたちです。コ・ゼヤトウとコ・ジミーと共に死刑判決を受けたコ・ラミョーアウンとコ・アウントゥラゾーは、民衆から生まれた英雄たちです。これは絶対に最も非人道的な行為です。もし彼らが私たちの仲間に死刑を宣告するならば、私たちはその判決を目の前で見たいと思います。黙ってやるわけにはいかないのです。民主主義と人権を守ろうとした指導者たちです。軍が若い指導者を殺したのは、世界の責任です。

FM：さて、コ・ゼヤトウが死刑判決を受けたことについて、あなたはどうしますか？

M/T：この「春の革命」以来、私たち二人は精神的に

も肉体的にともに働いてきました。私たちの親しい同志は、わが国の軍事独裁政権を倒すために、できる限りのことをしました。今、彼はここにいません。しかし、私は革命を続けていくつもりです。軍隊は残忍です。彼らはその残忍な行為の代償を払わなければなりません。彼らは真実のために償わなければならないのです。

FM：コ・ゼヤトウは、「春の革命」に何を期待したのでしょうか？

M/T：彼のスピーチから、SNS で分かることがあります。私たちはこの革命に勝たなければなりません。彼は、私たちが勝たなければならないとは言いませんでした。彼は、私たちはすでに勝っていると言ったのです。なぜなら、もし私たちが勝ったという意識で臨めば、成功するからです。これは、彼が抗議活動の際に発言を許された時の言葉です。

FM：もし「春の革命」が成功しなかったら、どうなるのでしょうか？

M/T：「春の革命が失敗したらどうするのか」という質問は聞きたくありません。私たちは成功します。なぜなら、私たちは後戻りができないからです。私たちは皆、軍と戦うために普段の生活を捨てています。命は無償で手放すものではありません。この革

命は成功するでしょうが、人民が団結しなければ時間がかかるでしょう。

FM：この春の革命が始まって以来、国際社会は軍と抵抗勢力の交渉を要求しています。今回の処刑の後、関与の可能性はあるのでしょうか？

M/T：私たちは誰にも関与しません。軍と交渉することはありません。このテロリストの軍隊は、私たちの国に存在し続けることはできません。私たちはこのテロリストの軍隊と一緒に暮らすことはできないのです。民主主義のために戦っている人々がこのように非難されるなら、(怒りの)火は燃え上がるでしょう。この行動により、私たちはより早く目標に到達できると信じています。

FM：他に何か付け加えることはありますか？

M/T：軍はやってはいけないことをやって、どん底まで落ちたのです。もし彼らがこのまま国を支配し続ければ、将来このような処刑がたくさんされるでしょう。私たちはこの判決を受け入れません。国全体がこの判決を受け入れていないのです。私たちは正義が行われるのを見たかった。この点で、私は最後まで軍に反旗を翻すつもりです。

「ちきゅう座」からの転載

